

事例で深める!

学習評価

実践校の取り組みを基に、
学習評価をより充実させるポイントを
田村先生がアドバイス



解説者

専門は教科教育学、教育方法学、カリキュラム論。文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官、同省同局視学官、國學院大學教授などを経て、現職。著書に『学習評価』(東洋館出版社)など多数。

北海道当別高校

生徒の振り返りレポートを分析し、 非認知能力の形成的評価に活用

振り返りを価値づけし、
生徒に学びの成果を自覚させる

振りを返却しています。(図①)。

田村

貴校は2024年度から、非認知能力の育成を目的として、学校独自の評価表を作成し、「総合的な探究の時間」(以下、総合探究)において運用しているのです。

古谷 生徒が自身の非認知能力の変容を認識することができるよう、探究学習の振り返りを工夫しています。「ALACTモデル」(図②)に基づき、生徒の振り返りレポートの中から、「振り返り」と「気づき」、

振りを返却していきます。(図①)。
評価の指標を教師間で共有することで、教師は根拠をもって

生徒へのフィードバックをすることができるため、教師による評価のぶれが小さくなりますね。

切江 今年度の夏季休業中に総合探究担当の教師が集まり、古谷先生が色分けした1年生の振り返りレポートを見て、抽出箇所や色分けに問題はないか、話し合いました。そうして、評価の観点を教師間ですり合わせることができました。

目標と振り返りを照らし
合わせて行動変容を促す

古谷 探究学習の目標としている

北海道当別高校プロフィール



左から／古谷知之(総合的な探究の時間デザインチーフ、数学科)、保格秀規(校長)、切江智大(地理歴史・公民科、学習支援部)

設立	1949(昭和24)年
形態	全日制/普通科・園芸デザイン科・家政科/共学
生徒数	1学年約50人
2023年度卒業生進路実績	4年制大は、札幌大、札幌学院大、札幌国際大、藤女子大、北翔大、北海道情報大に延べ8人が合格。短大・専門学校進学22人。就職16人。

行動変容が期待できる「行為の選択肢の拡大」にあたる記述にそれぞれ赤・青・緑の色をつけて視覚化するとともに、質問などを添えて振り

田村 生徒由線で目標を設定している点や、1文の中の要素を少なく述べて、評価者が迷わず判断できるようにした点が素晴らしいですね。

* 1 オランダの教育学者フレット・コルトハーベンが提唱した省察のプロセスのモデル。ALACTは、図に示した1~5の頭文字を取ったもの。

* 2 Empirical Viewpoints for Competencyの頭文字を取ったもの。

図 非認知能力の育成に向けた探究学習の評価方法

●省察の理想的なプロセス「ALACTモデル」を活用

行為と省察のプロセスが5つに分けられている。



① 生徒の次の行動につながるよう、生徒にフィードバック

教師は生徒の振り返りレポートを読み、「**2 行為の振り返り**」「**3 本質的な諸相への気づき**」「**4 行為の選択肢の拡大**」に該当する記述に赤・青・緑の色をつけ、質問やコメントを添えて生徒に返却する。例えば、赤の記述がない場合は、「あなた自身はどのような体験をし、何を感じましたか」など、青の記述がない場合は、「あなたの自身の体験から、どのような気づきを得ましたか」とコメントを添える。色をつけることで、今まで規準が曖昧だった生徒へのフィードバックを、「赤を引き出す」「青を引き出す」という観点で行えるようになった。また、生徒が自身の行為や考えを言語化したものを教師が価値づけすることで、生徒は自己肯定感を高めたり、次の行動を考えたりすることができる。

(当別町の企業との対話イベントに参加した生徒の振り返りレポート)

今回の「総合的な探究の時間」では私は、決めていた質問を時間が足りなくて言えなかっただけがありました。一方で、決められた質問以外に、その場に見合った質問をすることができました。それに対して、私は満足していました。ただ、私ともう1人の2人だけが手を挙げていたので、その時はほかの人からも「質問してくれー」と思っていました。でも、今しっかりと考へると、決めていた質問をあらかじめ共有していなかった自分に非があると思いました。また、私は今回、うなずきながら人の話をしっかり聞きましたが、正直、どんな話だったのか覚えていないところがあります。聞いたことと学んだことでは全く違うと思うので、このままでは駄目だなと思いました。

次に企業の方々とかかわる時には、話を聞くだけではなく「なぜこうなるのか」「なぜこうしないといけないのか」をしっかり考えていくよと思いました。

目標の設定

②

探究学習の目標「EVIC テーブル」を作成

2023年度の探究学習で生徒が書いた振り返りレポートの中からALACTモデルの「**4 行為の選択肢の拡大**」に該当する記述を中心におき出し、51項目に整理。同校が育成を目指す6つの資質・能力に分類した。同テーブルは教師及び生徒に共有。探究学習に取り組む際、教師は事前に51項目の中から1項目を生徒に提示して目標を意識させ、活動後には「今日の目標は○番でした。あなたはできましたか」と、生徒に自己評価させている。また、生徒は学期末や年度末に51項目を4段階で自己評価する。

尊敬心	1 日常生活でも心のコップの向きを気にしながら過ごす
	9 人も自分も褒められる
課題解決力	10 最後まで粘ってやる。目標を持ったのなら、最後まで逃げずに責任を持つ
	16 どんな解決方法を取るかを考える
自己肯定感	17 自分の悪いところばかりを見ているんだなと気づく。自分を否定し続けるのはやめる
	24 自分でも行動すると今の社会にかかわると実感を持つ
協調性	25 好きとか嫌いとかが自分の中にあっても、上手に人とつき合う
	34 メンバーに対して、雰囲気を考えた上で行動・発言が変わるように指摘をする
積極性	35 話さないといけない環境に自分を置く。自分にやらなければいけないと言い聞かせて行動する
	41 ネバギバ！や学校外のコンテストに参加する
探究力	42 予定→実行という流れをつくる
	51 他の人の言葉に影響を受けて自分のことを考える

①と②を組み合わせて
評価をブラッシュアップ！

田村先生からのアドバイス

生徒の振り返りレポートをEVICテーブルと照らし合わせて確認することで、例えば、「Aさんの振り返りには、『尊敬心』に関する記述が多い」などと、探究学習での成果を、学校が育成を目指す6つの資質・能力の観点で評価できます。教師は探究学習でも、学校が育成を目指す資質・能力を意識した支援ができますし、生徒もそれらを自覚することができます。また、EVICテーブルを学力の3要素とつなげられれば、総括的評価にも活用することができるでしょう。

※学校資料と取材を基に編集部で作成。

EVICテーブルは、総括的評価にも活用しているのですか。

切江 現在は、活動ごとに1項目を目標として生徒に提示したり、生徒の自己評価に用いたりして、形成的評価のみに活用しています。

田村 学校が育成を目指す6つの資質・能力と学力の3要素の関係を明らかにしたいですね。それに沿って、EVICテーブルによる評価が、学校が育成を目指す6つの資質・能力を介して、観点別学習状況の評価につながります。その上で、生徒の振り返りレポートをEVICテーブルで評価すれば、妥当で信頼できる総括的評価の実現に向かいます。

保格 田村先生のお話から、EVICテーブルによる評価は、非認知能力の育成と総括的評価に活用できるものになると感じました。その方法が教科学習の評価にも活用できるよう、研究を重ねていきます。